

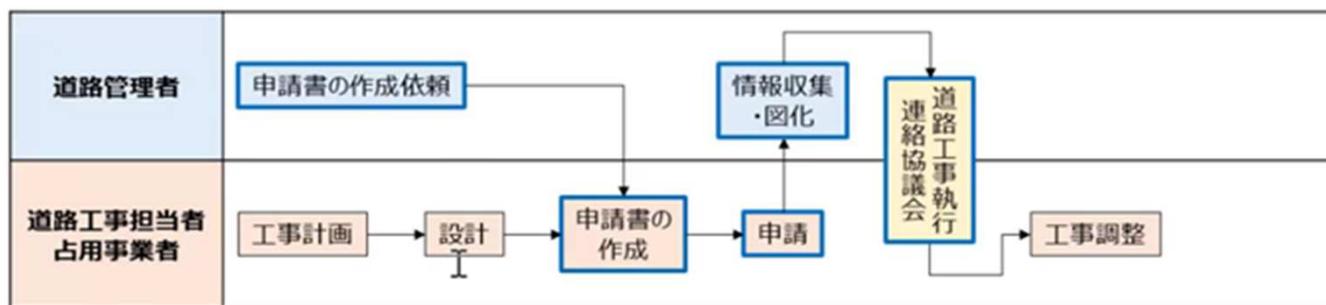
技術概要書（様式）

※別紙2

出展技術の分類	安全・防災 <input checked="" type="radio"/> インフラDX <input type="radio"/> 維持管理 <input type="radio"/> 環境 <input type="radio"/> コスト <input type="radio"/> 品質 <input type="radio"/> (該当分類に○を付記)		
技術名称	デジタル道路工事調整会議AP	担当部署	Smart Infra推進部 SIビジネス部門
NETIS登録番号		担当者	SIビジネス営業担当
社名等	N T T インフラネット（株）	電話番号	03-5809-1831
技術の概要	1. 技術開発の背景及び契機		
	<p>各占有事業者は道路工事調整会議に合わせて、自社の工事計画の工事計画調書と工事区域などを記載した紙図面を道路管理者へ提出します。そして道路管理者は、集まった各占有事業者の図面をひとつにまとめて、この資料をもとに各事業者が一堂に会する道路工事調整会議に使用します。このようなプロセスで道路工事調整会議を行う自治体が大多数で、これまで数十年間、同じ方法で実施されてきています。</p> <p>本会議は、占有事業者や道路管理者の大きな負担になっているだけでなく、新型コロナウイルス流行のなかにおいて接触機会にもなっています。ICTを用いることで、このような問題を解消できないかと考えたのが「デジタル道路工事調整会議アプリケーション」です。</p>		
	2. 技術の内容		
	<p>従来、紙、メール、電話、FAX等でやり取りをしていた工事計画情報を本アプリケーションを活用してオンライン化することにより、業務効率化が期待できる技術です。</p>		
	3. 技術の効果		
<p>各占有事業者がクラウドに用意されている地図上に工事情報を入力・共有し、その情報をもとにオンライン会議を行うことで、占有事業者と道路管理者の事務処理や移動時間等の負担が軽減できます。</p> <p>さらに同じGIS上で工事計画情報を共有するため、工事個所が重複する場合に工事を共同で計画することが容易となり、掘削・舗装の繰返し工事回数が抑制され、社会全体コスト削減が可能になる。</p>			
4. 技術の適用範囲			
<ul style="list-style-type: none"> ・道路工事調整会議のオンライン化 ・共同施工の推進 			
5. 活用実績			

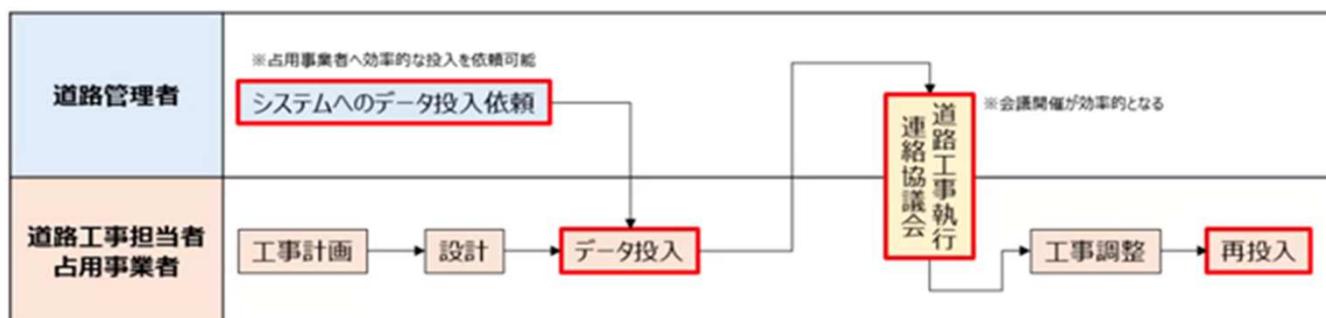
6. 写真・図・表

【Before】



 : システム化により不要・効率化される作業
 : システムを活用する作業

【After】



※システム画面を直接閲覧することで紙資料印刷コスト削減
 (紙資料の電子化枚数も削減)